

表1 生息密度に応じた流域区分の基準、防除の考え方及び作業内容

名称	生息状況の目安	防除の考え方	作業内容
高密度区	捕獲率が0.06以上	地区全体に十分な捕獲圧を加えることで捕獲率の増加を止める	ワナ占有率：90% 単位面積当たりの捕獲努力量： 20,000TD/km ²
中密度区	捕獲率が0.03以上 0.06未満	十分な捕獲努力をかけることで捕獲率を減少させる	ワナ占有率：80% 単位面積当たりの捕獲努力量： 15,000TD/km ²
低密度区	捕獲率が0以上0.03 未満	低密度に生息している 個体を排除する	ワナ占有率：70% 単位面積当たりの捕獲努力量： 10,000TD/km ²
捕獲ゼロ区	捕獲が1年以上ない	取り残しがないか、引き続き捕獲努力を継続する	ワナ占有率：60% 単位面積当たりの捕獲努力量： 5,000TD/km ²
モニタリング区	捕獲が3年以上ない	ワナによらないモニタリングに移行する	緊急収容によるモニタリング

- * 捕獲率：カミツキガメの捕獲数／ワナの設置回数×ワナの有効日数（1～3日）
- * ワナ占有率：ワナの有効範囲を半径50m四方として、カミツキガメの生息範囲をカバーする割合
- * 単位面積あたりの捕獲努力量：1km²あたりのワナの設置数（T：Trap）×ワナの有効日数（D：Day）